

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：菊地 憧 所属：京都市立桃陽総合支援学校 記録日：2021年2月22日

キーワード：自信 自己肯定感 書き支援 健康管理 生活改善

【対象児の情報】

・小学部6年

・障害と困難の内容

病弱 LD の疑い

桃陽総合支援学校は、京都市にある病弱の特別支援学校である。学校隣接の京都市桃陽病院に入院している小中学生が通う本校と、京都市内の5つの病院内にある分教室と、5つの病院以外に入院している小中学生のための訪問教育がある。本児は、本校小学部に在籍している。病気治療のために、平日は学校隣接の病院に入院している。週末には自宅に帰り、本校小学部家族との時間を過ごす。3月には必ず前籍校に戻り、中学は地元の中学校に入学することになっている。

①学習面…音読に困難さを感じており、単語の切れ目が分からなかったり勝手読みをしたりしてしまう。

書字に困難さを感じており、板書を写すことに時間がかかったり、自分で文章を作る際に漢字を想起できずひらがなで書いてしまったりする。

②生活面…週末に外泊し家庭で過ごす際に生活リズムが乱れ、体重が増加してしまう。

【活動目的】

・当初のねらい

1. 自身に必要な支援方法を理解、選択しながら自身にとって分かりやすい学習方法を確立することができる。
2. 好きなことを通じて自己肯定感を高めると共に、食生活をコントロールして健康的に過ごすことができる。

・実施期間

令和2年6月～令和3年2月

・実施者

菊地憧

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

1. 学習面

- ・意欲的に授業に臨むことができています。
- ・音読に困難さを感じている。初めて読む文章や、分からない言葉の多い文章は逐次読みになる。獲得語彙も少なく、単語の切れ目が分からなかったり、勝手読みをしたりする。
- ・書字に困難さを感じている。昨年度、漢字は小学4年の途中まで学習を行ったが、定着は難しい。
- ・板書に書かれた漢字はその通り書くことができるが、漢字の想起が難しく文章はほとんどがひらがなである。
- ・漢字を書く時は、点や線がぬけることが多い。
- ・カタカナで書くべきものの判別がついていないことがある。
- ・自分で考えたことを文章にして書くことが苦手なので、iPadでマインドマップを作成し思考や構成を整理している。
- ・現在、主に国語と社会の授業においてiPadを活用している。必要に応じて手書きかiPadによるノート作成かを選択して行っている。iPadの方が意欲的だが、打つ速度は書く速度よりも遅く、45分間行うのはしんどい。
- ・板書を写真にとってプリントアウトし、必要に応じてノートに貼っている。
- ・単元テストは、本児の希望があれば時間を延長して行い、読めない字は指導者に尋ねてもよいというルールで行っている。国語のテストは授業で学習した文章が出題され、内容を理解できているため解答正答率が高い。反面、初見の文章が出題された時には誤答や白紙が目立つ。漢字と言語分野は直前に復習をしても解答は難しい。

2. 生活面

- ・入院中は規則正しい生活ができているが、週末、家庭で過ごす際に夜更かしをしてしまう。
- ・入院中は食生活が整うため体重も減少するが、週末は暴飲暴食をして体重が増加してしまう。
- ・料理が得意で、自分で調理をして食べている。
- ・バスケットボール、ドッチビーなどの運動で体を動かすことは好きで、エクササイズ等にも関心がある。エクササイズの動画を見ながら自宅で週末に行くこともあるが、継続が難しい。
- ・他の児童に対して優しい声かけができる。大人に対しても明るく挨拶をすることができる。
- ・相手との距離感や心情をつかみにくく、トラブルになってしまうことがある。指導者と話し合い振り返ることで、うまく心理状態をコントロールしたり、自分から話をして解決しようとしたりする姿が見られるようになってきた。トラブルそのものも減ってきている。

・活動の具体的内容

1. 自身に必要な支援方法を理解, 選択しながら自身にとって分かりやすい学習方法を確立することができる。

(1) アセスメントの実施

① WAVES の実施

・見え方や形のとらえ方に困難さがあるため, WAVES を実施した。

<WAVES の結果より(10が平均値)>

(R2, 6月実施)

線なぞり		形なぞり		数字みくらべ		形あわせ	形さがし	形づくり	形みきわめ	形おぼえ	形うつし
合格	比率	合格	比率	I	II						
11	1	5	8	6	6	6	6	8	9	5	6

・WAVES の検査結果は, 全体的に数値が低く, 特に「線なぞり」「形なぞり」が低い。普段の姿から鉛筆を握り持ちすることもあり, 運筆の不器用さや正確に動かせないことと一致する。また, 「形おぼえ」「形うつし」の低さからも, 文字, 形の想起や記憶の保持が難しいことも結果から考えられる。

② CARD の実施

・音読の時, 単語を区切って捉えることが難しく, 逐次読みや勝手読みがあることから CARD を実施した。

<CARD の結果より, 評価点>

(R2, 7月実施)

ことば探し	ことばの意味	聞き取り	音しらべ	文の読み①	文の読み②	文の読み②	文の読み③	文の読み③	文の読み③	文の読み③
3	13	1	3	3	4	4	4	4	2	1

・CARD の検査の結果は, 全体的に数値が低く, 読みの困難や言葉の理解が難しいことが分かる。特に「聞き取り」が低いことから, 読みの速度に課題がある。さらに, 「音しらべ」においても正答率が低く, 聞いたことを正しく文字に表記できない姿が見られることと一致する。また, 「ことば探し」「文の読み」においても正答率が低く, ひらがなが羅列しているところから意味のある単語を読みとったり, 似たような羅列から正しい並びを読み取ったりするのが難しいと思われる。「ことばの意味」については選択肢問題であったため正答率が高かった。日常生活の中で正しく言葉を使用することは難しい。本人も「先生それどういう意味?」とよく聞くように, 獲得語彙は多くない。

③文章題プリントの実施

・国語の文章題のプリントを行った際、半分ほど正答できた。間違えた問題の中で、接続詞やセリフをあてはめる問題では、指導者が読み上げることですぐに正解することができた。しかし、本人としては読み上げる支援や iPad で書き込むといった支援よりも、「自分一人で読めるになりたい、解けるようになりたい」という思いの方が強くあり、そのことを訴えた。

これらのアセスメントの結果より、「書き」に対する支援は形、漢字の想起の困難さがあるため、PC、タブレットのキーボード入力が有効ではないかと考えた。「読み」に対する支援は、単語のかたまりを捉えられるようにしたり、聞くことを優先したりすることが有効ではないかと考えた。

(2) 一人で文章を読むための補助具の活用

・「自分一人で読めるようになりたい」が、「文章から単語を読み、理解するのが難しい」ことから、言葉の読み取りについて自分でできる方法を探った。

＜①定規を用いて読み取る様子＞

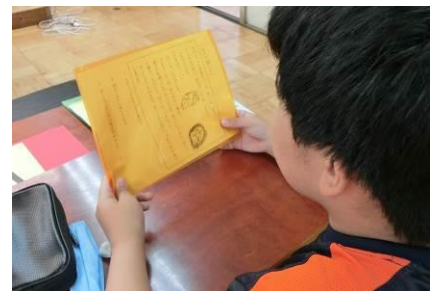
①読んでいるところを見失わないように、定規を用いて一行ずつ見ながら読む方法を行った。もともと手先の不器用さもあるせいか、読みにくいと言った。



②カラーファイルを用いて文章を読むと「オレンジだと見やすい」といって、背景色の配慮は考えられるが、読みにくさを改善するものではなかった。

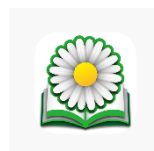
＜②カラーフィルムを用いて読み取る様子＞

③文章にスラッシュを引きながら読む方法を行った。完全な文節で区切るのは難しいので、まずは読点で区切り、それでも長い場合は読みやすいところを区切るように提案した。すると、読みやすいと言って、自分で区切りを考えながら取り組むことができた。スラッシュを入れながら読んだ時には「読みやすい」と実感をもてた。その時には「国語ちょっと好きになった」と口にしていた。



＜③スラッシュを入れながら読み取る様子＞

・現在、デジタル教科書の分かち読み用のものや、アプリ「デイジーポッド」を用いながら授業を行っている。デイジー教科書は気軽に内容を掴むことができ、音読でもデイジーで音声を一度聞くとスツと発音できるようになることがあった。



「やっこのこと、アチアチ言つた。また、激しく泣きました。でも、きいちゃんのお母さんは、いつでも、きいちゃんのことばかり考えているような大いした。『きいちゃん、小さいときに高熱が出て、それがもとで、手や足が思うように動けなくなつてしまいました。そして、高校生になった今も、訓練を受けるためにおうちを遠くはなれて、この学校へ来ていたのです。』



(3)「書き」の困難を支援する

・本児は形や、特に漢字の想起に困難がある。漢字の想起に時間がかかり、ノートに書くのに時間がかかる。そこで、PC 入力が有効と考え、OneNote を使ったノートづくりを始めた。書く量が多い国語と社会を中心に使用した。



・初めは45分間集中して行うのが難しかったが、板書の量を少なくしたり映像教材を挟んだりしながら集中が続くようになっていくと、45分間の使用でも問題なく使えるようになってきた。

・自分が打ち込んだ漢字が読めず、見返した時に困るということがあった。板書に振り仮名を振るようにし、その板書の写真をつけることで復習の際にも漢字を確認できるようにした。

・社会ではデジター教科書をスクリーンショットして貼ることでノートを分かりやすくした。国語では画像検索をしてノートに貼ることで場面の情景をイメージしやすくするなど、工夫する姿が現れている。

<画像検索した写真をはりつけたノート>



・対象児の事後の変化

1について

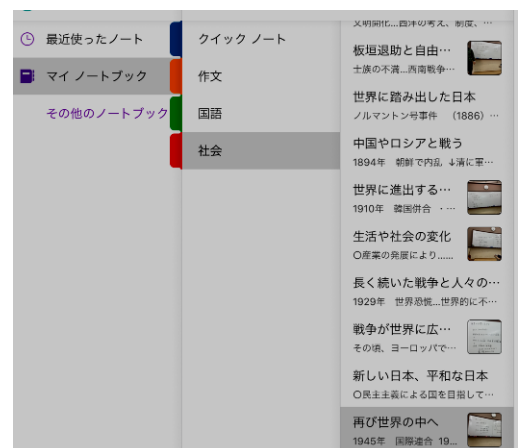
・「手書きでノートを書くよりも、iPad によるノート作成のほうが楽だからいい」という発言があった。また、OneNote はインデックス化されることが「分かりやすい」ようである。

・授業中、分からないことがあった時には「調べていいですか?」と断ってから知らないことやものについてサファリを使って検索する姿も出てきている。

・「もっと宿題増やして」と課題を要求したり、こちらが出した課題より多くドリルをこなしてきたりする姿が見られる。学習に対する意欲が高まっている。

・漢字や、読み書きに対する思いが強くなっている。朝学習でも積極的に漢字を学習する姿がある。ドリルやプリントの学習は自分の手で書きたい思いがあり、手書きで行っている。

・成績に関しての意識が非常に高まっている。「成績をあげたい」ということもよく口にする。



<One Note によるノート作成>

・活動の具体的内容

2.好きなことを通じて自己肯定感を高めると共に、食生活をコントロールして健康的に過ごすことができる。

(1)週末、家庭で作った料理を撮影し、クラスや学部の友人に発表し交流することで自己有能感を高めていく。



・本児は食べることが好きだが、料理をすることも好きである。週末の過ごし方の1つとして、好きな料理作りに時間を費やすことで規則正しい生活を送るきっかけにならないかと考えた。

・初めは料理の様子を動画で撮ったものと、完成品を写真で撮っていた。やがて本人から、「動画の編集がしたい」という声が出てきた。そこで、iMovie, Intro Makerといったアプリを紹介し、動画編集にも取り組んでみた。簡単に編集方法を伝えただけだが、Youtube にあがっている動画等を参考にして、意欲的に動画編集を行うことができた。クラスでの発表の場を設定すると、音楽や早送り字幕などの機能を使い、見る人を意識してタイトル画面やエンディングも楽しみながら作成することができた。できあがった動画はクラス内での発表だけでなく、他の教員にも自ら見せに行く姿があった。多くの人から褒められており、自信がついてきている様子だった。

・自らクラスに対して「リクエストはありますか?」と問いかけ、他者の意見や要望を取り入れようとしていた。



<動画の様子>



<発表の様子>

・対象児の事後の変化

2について

・動画を見ながら振り返る中で、「色が同じものばかり」という発言があった。改めて見返す中で自分の食べているものに気付くことができた。また、「金曜日に動画撮った時に食べ過ぎたなって思ったから土曜日は少なくした。野菜ばかりにした。」と話しており、自分自身で振り返って反省し、行動にうつすことができた。

・食事の内容を見ると、当初は朝から白米と焼肉を食べていたこともあったが、副菜や汁物をつけることができるようになっていった。病院の食事でも「野菜は残すことがある」と話していたが、自分で料理をすると、自然と野菜を取り入れることができています。また、魚をさばくなど食事のレパートリーも広がっている。

・睡眠時間について考え直し、どうすれば早い時間に寝ることができるのかを考えたところ、日中に運動をして疲れていると自然と眠たくなり、ゲームやインターネットに手を出さずに寝ることができると気付けた。

・夏休みや連休になると、外食にでかける機会が増え、運動する機会が減ってしまうこともあり体重が増えやすい。しかし、この夏休みの体重は2kg 増にとどまった。(去年は7kg ほど増えていた)



<ある日の朝食>



<魚をさばいて刺身にする様子>



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

1について

自分にあった学習方法を身に付けていくことによって、学習への意欲があがったのではないかと考えられる。

2について

好きな料理や動画作りを通して心の安定、充実感が増し、自己肯定感があがったのではないかと考えられる。

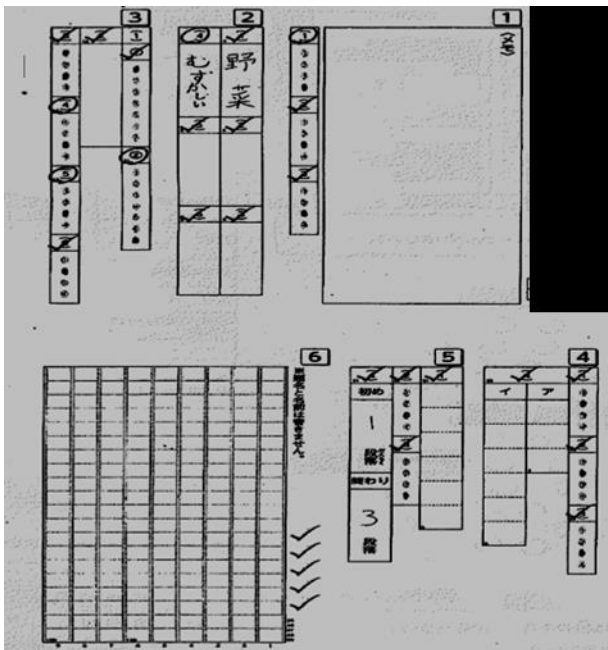
・エビデンス(具体的数値など)

1. 学習意欲に関すること

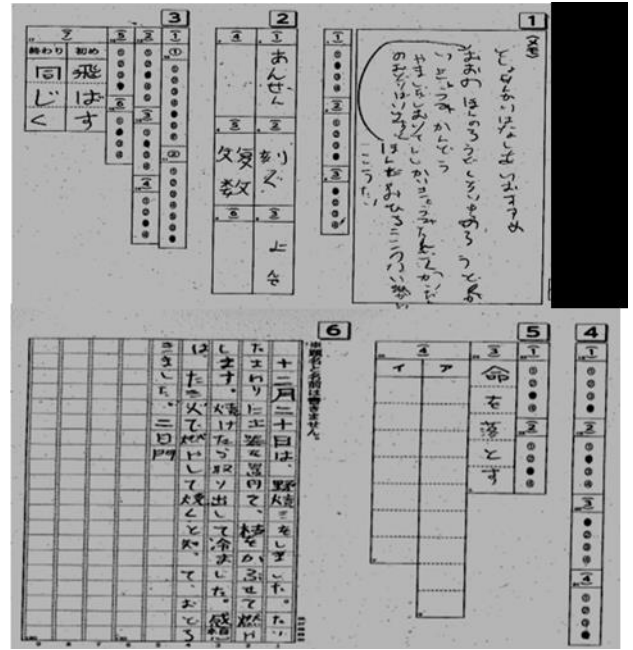
(1) 京都市小学校共通テストの結果

・京都市が独自に実施しているテストを、年間2回行った。以下は、9月に実施したものと1月に実施したものの国語の解答用紙である。これらを見比べると、問題に取り組む姿勢に変化が見られる。9月では、選択問題と分かった漢字のみに取り組み、聞き取り問題のメモをとることもしない状態だった。1月では、選択問題だけでなく記述問題にも取り組んで解答しようとしている姿が見られる。正答率でみると、約17.2%から約27.7%へと得点を伸ばすことができた。

< 9月実施 >



< 1月実施 >

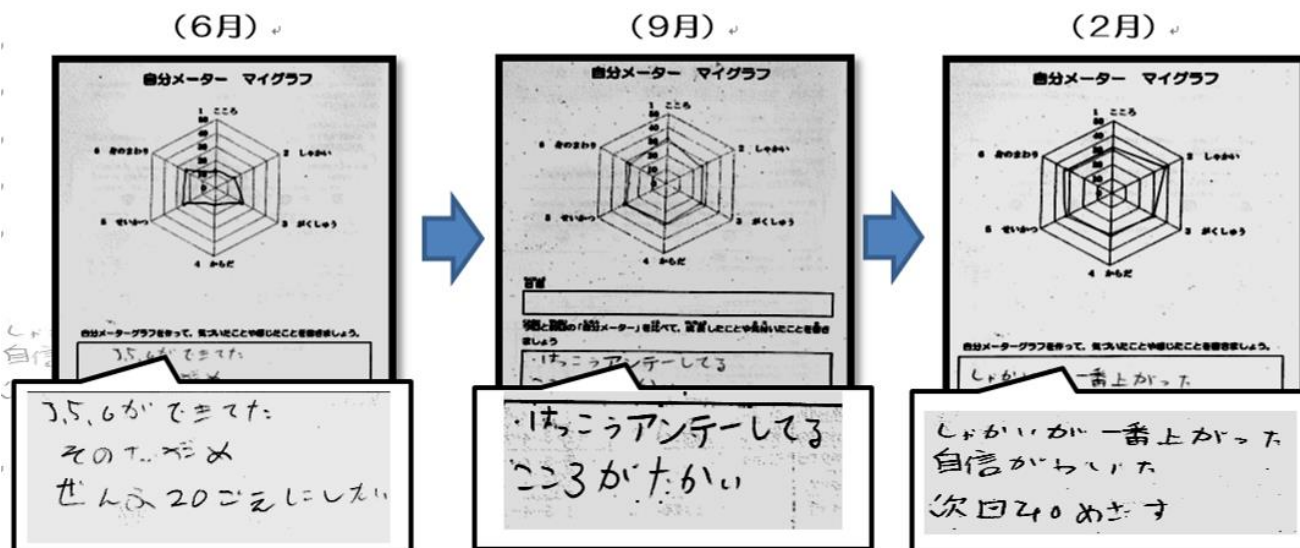


2. 自己肯定感の向上に関すること

(1) 自分メーターの作成より

・自立活動の時間に、本校小学部の児童は自分メーター（※昨年度埼玉県立けやき特別支援学校の許可を得て使用）を活用し、定期的にマイグラフを作成している。これにより、自分像を客観的に捉え、変化や成長を確認することを目的としている。いくつかの質問に答えて、項目ごとにデータ化されてマイグラフを作成した。

・以下は、本児のマイグラフの移り変わりである。グラフを見ると、全ての面（心、社会、学習、体、生活、身の回り）において向上が見られる。特に、心と社会面に関しては大きく数値を伸ばすことができおり心理的な安定や、対人関係の構築において成長できたと考えられる。生活、学習面に関しても少しずつだが確実に伸ばすことができた。元々、学習の遅れや対人関係の困りなどにより自己肯定感が低く、指導者が褒めるような声掛けをおこなっても素直に受け入れられない状態だった。しかし、自分メーターによる客観的な数値を見ることで、目に見えない心や社会性の向上を感じることができ、「自分って結構成長しているんだ」「自信がついた」と喜んで発言する姿が見られた。自分で自分のことをなかなか認めてあげられなかった彼から、そのような発言が現れることが何よりの成長である。また、記述欄においても、ひらがなばかりの6月から比べて、2月の時には自然と漢字を使って記述することができている。



(2) こころとからだのアンケート結果より

・本校では、「こころとからだのアンケート」を実施している。このアンケートは、気持ちや体調について全26項目の質問に対して4段階で自己評価をつけることで今の状態を知ることを目的としており、6月と1月に実施した。

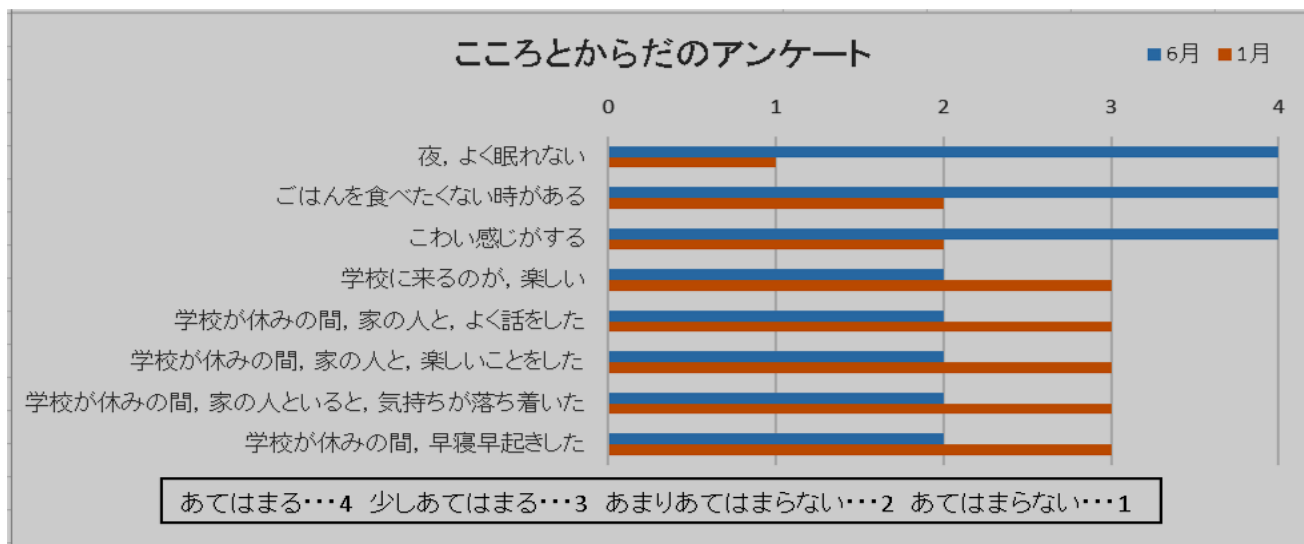
質問1 あなたの気持ちや体調について質問します。自分があてはまると思う番号を一つえらんで○をつけましょう。

質問	1	2	3	4
1) おなかがいたい.....				
2) 顔がいたい.....				
3) 髪、よくおられない.....				
4) 口はんを食べたくない。 話がある.....				
5) さびしい感じがする.....				
6) 元気がない.....				
7) こわい感じがする.....				
8) 寝なくても寝たくない.....				
9) イライラする.....				
10) ちょっとしたことで、 泣いてしまう.....				

質問2 学校がはじまってからのあなたの気持ちについて質問します。自分があてはまると思う番号を一つえらんで○をつけましょう。

質問	1	2	3	4
1) 学校に来るのが、楽しい.....				
2) 学校の友達に会うのが、 楽しい.....				
3) 学校の先生に会うのが、 楽しい.....				

・以下は本児のアンケートを一部抜粋し、6月と1月で比較したものである。「夜、よく眠れない」「ごはんをたべたくない時がある」といった生活習慣に関わるネガティブな心理状態においてはあてはまらなくなっている。一方、学校や家庭では「学校に来るのが楽しい」「家の人という気持ち落ち着いた」と安定した心理状態へと変化してきている。



・その他エピソード

1. 学習意欲に関すること

・以前より漢字の学習に関して抵抗感がなくなっている。朝学習で行う漢字プリントも一人ですすめることができ、分からないものは電子辞書で調べ、そこにチェックを入れておくことで後から復習もしやすいように工夫して行うことができています。

・自分の言葉を文章にすることができるようになってきた。作文などはiPadを活用することで、修正が用意になったこともあり、自分の思考を整理する力がついてきている。5年生の頃は自分の気持ちなどを文章にする際、箇条書きや単文で書くことが多かった。現在では、主語と述語を意識して一文一文を丁寧に書くことができたり、初め、中、終わりの段落を意識した構成にしたりすることができるようになってきている。

・指導者が尋ねた前時の復習問題を答えられなかった際、クラスメートから「ノート見返したらいいやん」という言葉をかけられ、整理されたOneNoteのノートを見返すことができた。本児も、国語と社会以外のメモは別のフォルダで書く、ノートの分類を間違えてしまったことに気付いた時は自分で直すなど、意識して整理を心がけようとする姿が見られる。

2. 自己肯定感の向上に関すること

・本児の母親と面談した際、週末の家庭での様子を聞くと「すごく落ち着いてきている」という話をされていた。中学年の頃はイライラするとものにあたるなどの行動が見られたが、そういった言動は見られなくなったようである。料理や動画作成が心理的な安定につながったのではないかと考えられる。

・自分のことを認めようとする場面が少し見られた。昨年「褒められたい」という気持ちはあったが、他者から褒められた言葉を素直に受け入れられず、自分で自分のことを褒めることも一切なかった。しかし、ここまで休むことなく登校し授業に出られたことを褒めた際に「自分って頑張ったなあ」と受け入れることができた。小さな成功体験が自信につながってきているように感じる。

【今後について】

- ・4月からは、退院して地元の中学校に進学する予定である。先日、前籍校である小学校とのカンファレンスを行った。ドクターからは「入院時は76%だった肥満度が26%ほどまで大幅に下がってきている」という話があり、本児も人数が多い中への不安もあるが、頑張っていきたい気持ちがある。
- ・学習方法の引き継ぎを行った。中学への引き継ぎについては前籍校の小学校からも話してもらい、今後、直接本校で行っていたことを引き継げるような場の設定をしていく。
- ・生活リズムを整えるため、調理やエクササイズを続けてもらうよう声をかける。